



「ひきこもり」 問題のいま



長期高年齢化に対応する

内閣府の実態調査によると 15 ～ 39 歳で約 54 万人（2015 年度）、40 ～ 64 歳で約 61 万人（2018 年度）がひきこもりと推計され、もはや若年のみの問題ではないこと、また長期化への対応の必要性が明らかとなった。本特集では、ひきこもりの現状と精神医学的状态像の理解を踏まえた上で、保健師に求められるひきこもり支援について考える。

-
- ひきこもりの実態とあらゆる世代への支援
 - 「ひきこもり」問題のこれまでとこれから
 - ひきこもりの状態像から見た精神保健上の見立てと今後の課題
 - 就労がひきこもり支援のゴールか？
 - 山形県村山保健所におけるひきこもり支援の取り組み
 - ひきこもる今と向き合う 精神保健福祉相談員の立場から